

花粉交配昆虫
ビーフライの利用に向けた
留意事項について

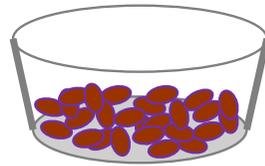
2025年9月17日

(株)JAPAN MAGGOT COMPANY

ビーフライの配送方法



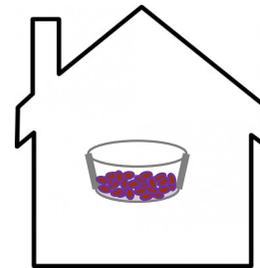
ジャパンマゴットカンパニーにて生産



サナギで出荷



冷蔵宅配便



屋内保温による羽化促進

25°Cで約3日

サナギの入った容器をハウスに持ち込んで放飼

羽化促進

サナギから成虫に羽化させる

最大のポイント

○羽化をさせるために25℃を安定的に保つ

約2~3日で羽化開始

温度が低いと : 羽化率低下

(10℃以下長時間) 羽化までの日数伸びる

サナギのまま死ぬこともあり

温度が高いと : サナギのまま死ぬ

(40℃以上数時間)

冬場の低温注意

直射日光注意

羽化促進

25℃を安定的に保つために羽化促進装置Bフライヤーを使用する

ビーフライ羽化専用キット『BフライヤーⅡ』は羽化するための適切な温度を維持し安定的な羽化を促します。

- ハウス内に電源が必要
- ハウス内に電源がない場合は、電源がある場所で羽化促進させて数匹羽化したらハウスに設置

詳細は添付資料 ①
「BフライヤーⅡ」
をご覧ください。

Bフライヤーを使用しない場合

- 空調管理された部屋などに置いてください。
- その際は虫かごに入れると圃場に移動/導入しやすく便利です。



ビーフライ利用条件

○利用可能作物：イチゴ、マンゴー、アボカド、採種用途(アブラナ科、タマネギ、ニンジン、ワサビなど)

利用不能作物：ウリ科(スイカ、メロン)ナス科(ナス、トマト)

○使用期間：約2～3週間

(ヒロズキンバエの寿命)

○使用量：ビーフライ単独 3～5パック/10㍻
(イチゴ) ミツバチと併用 1～2パック/10㍻



ビーフライ利用条件

活動温度帯

活動温度帯が広い 冬場/夏場でも活躍

ヒロズキンバエ 10℃~35℃

雨天・曇天でも活躍

紫外線(太陽光)を頼りに飛行しない

植物工場でも利用可能

ミツバチと併用可能

冬のイチゴ向き

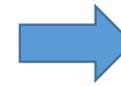
暑いハウス向き

雪の多い地域でも

ビーフライ導入留意点

○必ずパックのフタを開ける

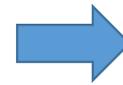
羽化直後に羽を伸ばすためスペースが必要



○クモやアリに注意

サナギが食害をうける

柱の陰や高い場所に設置することを
推奨



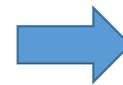
ウズキコモリグモ



アリによる食害

○動物性タンパク質(死骸など)に注意

ハウス内は常にキレイにしておく
卵を産み付けウジが湧く



ハウス内で羽化したハエはタンパク質を摂取しなければ卵巣が発達しないため産卵することはない。

ビーフライ導入留意点

○逃亡に注意

換気のためにハウスのサイドなどを開けると逃亡し戻ってこない
ので逃亡防止ネットを張る。(4mm目合い以下のネット)

○農薬に注意

ハエは薬散時に回収は出来ない
ミツバチには影響のない農薬にも注意が必要

詳細は添付資料 ②
「ビーフライ利用マニュアル」
をご覧ください。

○観光農園で利用する場合

ビーフライが清潔なハエであることを訴求した
パンフレットを利用
(私たちはビーフライを応援します パンフレット)

詳細は添付資料 ③
「私たちはビーフライを応
援します」
をご覧ください。